

前年度の学校評価

ア 自己評価結果等

令和6年度重点目標		1 自らのキャリアを考える キャリア教育の充実 2 学ぶ意欲を向上させる 個に応じた学習指導 3 自己指導力を育む 考える力（メタ認知）を育成する生徒指導 4 多様性への理解を高める 社会性を高める教育活動の設定 5 いのちの大切さを理解する 防災安全教育の充実 6 教職員の多忙化解消 ICT機器の活用 7 新しい学校づくり	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
総務	・行事運営の効率化 ・効果的な情報発信の研究 ・同窓会活動の充実	・効率的な準備、運営の研究 ・学校 Web ページや学校通信の充実 ・同窓会総会を盛り上げる。	・事前に計画を立てることができた。来年度に向けて振り返ることもできた。 ・Web ページに加え、Instagramを行うことができた。 ・同窓会と密に連携をとることができた。
教務	・教育課程の充実 ・新学習指導要領への対応 ・ICTの活用	・フレキシブルハイスクール開設に向けた教育課程の整備 ・観点別学習評価の一層の充実 ・ICTを活用して主体的で対話的な深い学びの実現	・今後の課題も残っているが、開設に向けて準備を進めることができた。 ・昨年よりは定着してきたが、まだ一層の定着と改善が必要である。 ・若い先生を中心にしてICTの活用が進んだ。
生徒指導	・規範意識の高揚 ・基本的生活習慣の確立 ・教育相談、特別支援教育活動の充実 ・いじめ防止対策の推進	・挨拶を励行させる。 ・身だしなみ意識を向上させる。 ・登校指導を通して不注意遅刻を減らす。（遅刻防止週間の設定） ・特別支援教育活動の指導体制を整備し、組織的対応を可能とする。 ・いじめの未然防止と早期対応に努め、相手の気持ちを慮ることができる生徒を育てる。	・遅刻防止週間を設定し、不注意遅刻の防止を呼びかけた。期間中は遅刻数が減少したものの、全体的に遅刻数は増加傾向にある。今後も不注意遅刻を減少させるための手だてを考えていきたい。 ・特別支援教育活動の指導体制の整備については、関係教員の意識向上と情報共有システムの整備により、一定の成果を得ることができた。 ・いじめの対応については、各学年と連携を取りながら迅速な対応ができた。しかし、未然防止のための取り組みが不十分であることが今後の課題である。
進路指導	・生徒の進路意識の醸成 ・進路実現に必要な学力の育成 ・時機を得た進路情報の発信	・キャリア教育と関連付けた進路計画の立案 ・補習、土曜学習会の効果的な実施 ・進路委員と連携した進路だよりの発行	・進路行事を中心に、適切に実施できた。各行事のフィードバックを丁寧に行い、次年度へつなげたい。 ・補習、土曜学習会の在り方について、生徒や教員の負担を減らしつつ、効果的な実施となるよう見直しを行った。 ・教員からの情報発信はできたが、進路委員と連携した取り組みは実施できなかった。
特別活動	・生徒会および委員会活動の充実 ・飛翔祭(文化祭・体育祭)の充実 ・諸行事や部活動などの見直し	・生徒会役員が自主的、主体的に企画を行い実行できる能力を育成する。 ・飛翔祭の活動を通じ、3年生のリーダーシップを育み、他学年などとの交流を通して社会性を育む。 ・フレキシブルハイスクールに向けて行事や部活動などの再編をはかる。	・体育祭や球技大会での種目改善等のアンケートを生徒会役員が作成し、生徒議会を通して発信・集約・検討・決定することができた。 ・本年度は3年生のリーダーたちに異装やスマホ利用等のルールメイキングを実施した。「自ら作り、自ら守り、みんなに守ってもらう」主体的取り組みが見られた。 ・あまり抜本的な改革ではなく、現状の組み直しの中で微調整できるような準備の用意、選択肢づくりの方向で行った。
保健	・健康管理の充実 ・防災教育の充実 ・学習環境の整備	・健康観察や保健室利用状況の確認。 ・災害時の状況を具体的に想定した防災教育を充実する。 ・3課程開設に向けて環境を整える。	・健康観察や保健室利用状況から感染症等を早期把握し対応することができた。 ・高校生防災セミナーに生徒と参加し、学んだことを全校集会で発表させるなどして防災教育の充実を図った。 ・3課程開設に合わせた健康診断の調整等を行った。引続き滞りなく実施できるよう努めていきたい。
図書研修	・図書館の利用者数の増加 ・授業改善への意識の醸成のための研究授業 ・「開かれた図書館」へ向けた準備	・新規納入図書の情報発信、図書委員会の充実 ・授業研究週間の充実 ・全体研修会の充実 ・フレキシブルハイスクール開設に向けた図書館運営システムの整備	・授業研修週間では、ICT 機器を活用した授業や、グループワークを取り入れた授業が昨年よりも多くなり、授業改善の意識の高まりを感じられた。 ・全体研修会への参加率が昨年度より向上した。 ・来年度の図書館の在り方について、予想される事態を想像して対応できる体制を引き続き整えていきたい。
3年	・進路実現に必要な学力の養成 ・自主学習の充実や良質な生活習慣の確立 ・社会人としての基礎的素養の養成	・進路実現のための計画を立てさせたり、教員による適切な情報提供や指導を行わせたりする。 ・良質な生活習慣が学習習慣につながることを理解させるよう指導する。 ・学校行事等の活動で自らの役割を見つけ、責任を果たす経験をさせる。	・面談や総合的な探究の時間を活用し、進路実現に向けて生徒の意識を高めた。また、担任会や進路検討会を通して、学年の教員間で情報を共有し、個別の進路指導を検討することで、生徒によりよい支援ができるよう努めた。一方、全体に向けての指導は多くは実施できなかった。 ・早朝、業後補習（進学・就職）で進路実現に向けての学力・意識の向上を図った。また、夏季補習、土曜学習会、業後学習会を通して自主学習の充実を図った。
2年	・キャリアプランニング力の育成 ・進路実現に必要な基礎学力の定着 ・良質な生活習慣の確立と豊かな人間性の育成	・総合的な探究の時間を通して、自己進化のための機会を多く設定する。 ・主体的・対話的で深い学びのための授業改善と工夫に努め、良質な学習習慣を身につけさせる。 ・安易に遅刻や欠席をしないような生活習慣の改善を図る。 ・行事への積極的な参加を促す。	・計画性を持って取り組むことができた。卒業後の進路に向けた、3年生になる前に行うべき準備を進めていきたい。 ・良質な学習習慣が身についたとは言い難い。全体を通して学習を心掛けている割合があまり高くない。まずは、家庭学習の習慣を確立させたい。 ・昨年度に比べ遅刻、欠席とも多くなっている。多くなっている生徒に対してその都度指導を行った。 ・積極的な参加が見られた。修学旅行や地域清掃活動など数多くの生徒が参加していた。
1年	・基本的な学習習慣及び生活習慣を身につけさせる。 ・自ら教育環境と身だしなみを整えられる判断力を養う。 ・行事や部活動に積極的な参加のできる自主性を育む。	・授業を中心に学力向上の手段を、ホームルーム活動を中心に望ましい生活サイクルを学ばせる。 ・清掃活動と学年集会を通して、望ましい姿勢を学ばせる。 ・行事と部活動を中心に、自主的な活動の場を与える。	・授業とホームルーム活動の両方から生徒にアプローチすることはできたが、継続的な取り組みが必要である。 ・清掃活動に関わる指導をし、学年集会は定期的に開催した。指導の内容を更に精査する必要がある。 ・生徒が主体的に活動できる場をできる限り多く提供した。
総合評価		・フレキシブルハイスクール開設に向けて、教育課程編成表の作成や教務内規の整理など、学習面における3課程それぞれの方針を固めることができた。今後、進級や転籍の要件について明文化できるように継続して検討する。 ・学校祭において生徒が主体的にルールメイキングをおこなったり、校則の改善について生徒が自ら発言できる機会を設けたりしていることは、自己指導力や社会性の育成につながり、ひいては多様性への理解を高めていると言える。 ・進路意識の醸成や職業観の育成等を目的とした、大学との連携による本校独自のキャリア教育が定着してきた。 ・ICT 機器の効果的な活用に関する全体研修や個人研修により、授業でICT 機器を活用する教員が増えた。次年度は通信制課程が開設されることもあり、学習アプリを活用した授業ができるよう学校全体で取り組むことが必須となる。 ・ペーパーレスによる会議や Teams による情報交換で会議を減らすなど、多忙化解消のための業務改善により、在校時間は昨年度と比べると減少した。	

イ 学校関係者評価結果等	
学校関係者評価を実施した主な項目	1 進路目標達成に向けた進路意識の向上について 2 確かな学力の習得への取組について 3 基本的な生活習慣の確立、社会人としての規律やモラル・マナーの習得について 4 健康な心身や自他の命を大切にする心の育成について 5 学校行事や部活動の充実など活力ある教育活動の推進について
自己評価結果について	令和6年度の重点目標の達成度について領域別・項目ごとに自己評価を行った。
今後の改善策について	1 キャリア教育を軸に、学力の定着、進路実現に向けての指導は今後も堅持したい。また、授業や学校行事における生徒の主体的な取り組みや、学校生活に対する意欲の向上を図ることができたので、継続していきたい。 2 研究授業や公開授業週間、授業評価等を活用し、教員の授業力向上を図ることができた。また、ＩＣＴ活用を積極的に進めることができた。さらに、新学習指導要領を実施し、評価規準・評価方法の研究を進めた。今後は単元テストやパフォーマンステストなど定期考査以外評価方法を工夫し、多面的な評価ができるように取り組みたい。 3 生徒指導面は、遅刻ゼロ週間や遅刻多数者への面接指導を通して、遅刻数の減少を目指した。きめ細やかな指導により成果は徐々に出ている。また、安全面では、ＰＴＡや地域との協働によって交通安全立哨指導や生徒安全委員による見回り指導を活性化させた結果、安全に対する意識が向上した。今後はヘルメット着用率を増やし、交通マナーの遵守を徹底させるとともに、様々な角度から命の大切さを伝え、交通事故ゼロを目指したい。 4 フレキシブルハイスクールや本校の魅力についての情報発信は、地域の中学校に対しては積極的に提供しているが、学校の Web ページやＳＮＳもさらに充実させ、本校の教育活動を理解してもらえるよう努めたい。
その他（学校関係者評価委員から出された意見・要望）	・生徒が主体的に活動できる場所として、地域の施設を積極的に活用してください。 ・地域に高校は1校しかないため、地域も支援しやすい。 ・住心地の良い地域づくりに学校として貢献してほしい。 ・欠席や遅刻の数が多いのは、中学校も同じ。中学校の現状がそのまま高校に反映していると思われる。 ・地域の人材をボランティアの受け皿として活用してください。 ・部活動の成果発表の場や、通信制のサテライトとして地域の施設を利用してください。 ・地域のイベントの活性化について、学校からもアイデアを出してほしい。 ・フレキシブルハイスクールについては地域も協力したい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	・学校関係者評価委員会構成・・・学校評議員5名 ・評価時期・・・3月下旬

- (5) 経営管理上の問題点等
- ア 管理運営
- (ア) 経験の浅い教職員の増加。ミドルリーダー層の不足。

ある程度経験を積んだ教職員にとっては常識的と言うまでもないことが、経験の浅い教職員には十分に理解されておらず、ホームルーム経営や教科指導について細かな調整や確認が必要である。ミドルリーダーの層が少ないため、ヤングミドルリーダーを育成することが急務である。

(イ) 学年間、分掌間の連携不足。

特別支援教育委員会や学年主任会での連絡・調整方法を工夫し、全教職員へ周知徹底できるよう心がけたい。

(ウ) 教育活動の外部への効果的な発信

学校の Web ページとＳＮＳの更新回数を増やす、地域と中学に発信している学校通信を充実させるなど、フレキシブルハイスクールとなった本校の魅力を保護者や中学校、地域の方に理解してもらうため、今まで以上に努める必要がある。
- イ 施設・設備
- (ア) 昼間定時制、通信制設置後の教室や施設の利用方法を見直す。

(イ) 北館の改修工事が円滑に進められ、工事期間中の学校生活に支障が出ないよう対応する。

(ウ) 校舎・施設の不具合箇所が目立つようになってきたため、維持と整備に努めるとともに、保全・管理を徹底する。